

目次

| | | | | | | | |
|---|---------------------|------------|----|----------------------------|------------|------------|----|
| 1 | 発刊にあたって…………… | 1 | 入選 | 黒部市立鷹施中学校 | 大窪 祐輔…………… | 9 | |
| 2 | 受賞作文…………… | 2 | 入選 | 黒部市立高志野中学校 | 能村 美悠…………… | 10 | |
| | 富山県知事賞 | | 入選 | 黒部市立桜井中学校 | 吉田和歌子…………… | 11 | |
| | 黒部市立高志野中学校 | 森山恵理佳…………… | 2 | 入選 | 魚津市立東部中学校 | 天野 晶心…………… | 12 |
| | 北方領土問題対策協会理事長賞 | | 入選 | 富山市立大沢野中学校 | 加賀原真帆…………… | 14 | |
| | 黒部市立鷹施中学校 | 池崎 伍稀…………… | 3 | 入選 | 高岡市立南星中学校 | 寺井 宏海…………… | 15 |
| | 北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞 | | 3 | 入賞者一覽…………… | | 16 | |
| | 富山市立岩瀬中学校 | 金井 春音…………… | 4 | 作文コンクール(要項・応募状況・審査内容)…………… | | 17 | |
| | 富山県教育委員会教育長賞 | | | | | | |
| | 黒部市立桜井中学校 | 吉澤 葵…………… | 5 | (巻末) 参考資料 | | | |
| | 富山県市長会会長賞 | | | | | | |
| | 魚津市立西部中学校 | 城木 穂香…………… | 6 | | | | |
| | 富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞 | | | | | | |
| | 黒部市立宇奈月中学校 | 中山 舞祐…………… | 8 | | | | |

発刊にあたって

北方領土は、私たち富山県民にとって先人が開拓した大切な領土であり、本県に約六百人おいでになる元島民の方々にとってはかけがえのない故郷です。しかし、戦後六十八年が経過した今日においても、依然としてロシアによる不法占拠が続けられています。

「私たちと北方領土」作文コンクールは、中学生を対象に、北方領土という日本の領土でありながら、日本人が自由に往来できない地域があるという現実を正しく理解し、関心と呼び起こすことを目的に実施したもので、今回で七回目となります。

県内全域の中学生から多数の応募をいただき、北方領土の歴史や富山県とのかかわり、国際情勢を分析しながら現在の交流の状況などを自分で調べ、興味と関心をもって学習している生徒が多いことに驚きました。この作文集は、そのうち十二編の入賞作品を掲載しておりますが、いずれも大変すばらしい作品であり、北方領土問題に正面から向き合って考えたこと、問題の解決には国民の粘り強い取り組みが必要なこと、ロシア人との相互理解が必要であることなどが訴えられています。また、残念ながら、あと一步で入選を逃された作品の中にも、きらりと光るすばらしい作品が数多くありました。

これらの多くの作品から、北方領土問題解決の希望を担

う次世代の皆さんが育つていけることがうかがわれ、喜びにたえません。また、こうした学習を通し、生徒が国際的な場でも活躍できる力を身に付けてくれるものと期待しております。

この作文コンクールを通して、北方領土問題の正しい理解とその返還運動について、自らの考えをもち、文章に表現することは、それぞれの学校における北方領土についての授業のあり方とその内容が大きくかわってくるということを改めて実感しました。私ども県民会議と教育者会議では、県内全ての中学校に北方領土に関する教育用DVDとその活用の手引きを、また、昨年四月には、県内の全小學校に小学生向け学習資料のCDを配付しており、引き続き、北方領土教育の一層の充実に努めていきたいと考えております。

おわりに、この作文コンクールにご協力いただきました多くの皆様方に改めて厚くお礼申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成二十六年三月

北方領土返還要求運動富山県民会議

会長 杉本 正

富山県「北方領土問題」教育者会議

会長 尾村 国昭

富山県知事賞

私の考える北方領土問題

黒部市立高志野中学校 二年 森山恵理佳

北方領土、それは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島のことです。そして北方領土問題とは、第二次世界大戦終戦直後、日本の領土にもかかわらず、ソ連軍によって占領され、ロシアとなった現在も不法占拠の下に置かれていることです。私がこの問題に関心をもったのは中学一年の夏でした。その時から私は、この問題の内容や、日本に帰された方々がいることを知り、ほうっっておいてはいけない問題だと思いました。今、私が北方領土問題について、学び考えた解決策は二つです。

一つ目は、両国が思いやりをもつて解決する方法です。北方領土はもともと日本の領土であり、日本人が住んでいた場所です。その大切な故郷から追い出された人達の気持ちを考えねばなりません。私の故郷は、黒部市です。もしも自然豊かで、優しい心をもった住人でいっぱい大切な故郷から追い出されれば、悲しさや怒りから、「返してほ

しい。戻りたい。」と思うに違いありません。終戦後、北方領土から追い出された日本人は一万七千二百九十一人で、その中の富山県民は千四百二十五名、また、その中で黒部市出身者は六割の八百三十五名です。そんな多くの人達が戻りたいという一心で、今も希望を捨てず、返還運動に取り組んでいます。私は、そんな方々の気持ちになり少しでも力になりたいと思いました。しかし、今、住んでいるロシア人の生活の事も考えなければいけないと思います。たとえ日本の領土を占領したとしても北方領土を返してもらってロシア人を追い出すのは、初めにロシア人が日本人にやったことと同じことになるからです。追い出された時の辛さも恋しさも知っているからなおさらです。私は、日本側はロシアのしたことに對して恨んだり妬んだりせず、ロシア側は日本の領土占領を反省し思いやりの心でこの問題を解決し、両国民が仲良く一緒に暮らす事が一番いいと思います。

二つ目は二島返還という方法です。私は日ソ共同宣言を署名したのは良い事だと思いました。でもその一九五六年から正常な外交関係の再開へ向けた取り組みが進んでおらず領土でもめ合っているのは無意味だと思っています。ロシア側は日ソ共同宣言を署名する前に歯舞群島、色丹島につい

ては返還を約束すると言っていました。私も四島返還を望みますが二島だけでも返還してくれるなら、そこから正常な外交関係とともに一部の日本人が故郷に帰られるならそれも一つの方法だと思えます。解決までは至りませんが少しでも故郷を恋しく思う方々を幸せにできるのではないのでしょうか。

私は日本側の事も、ロシア側の事も考えた領土問題の解決法を考えることが大切だと思います。こうしてロシア側も不利でないように仲良く解決できる方法を見つける事で、正常な外交関係の回復にも繋がるかと考えています。私は、まだ二つしか考えられていないのですが、実際その場の近くに行ったり、お話を聞いたりして北方領土についてもっと学び、より多くの解決法を考えたいです。そして今もなお、帰れずにいる北方領土に住んでいた方々の力になりたいです。

北方領土問題対策協会理事長賞

近くて遠い北方領土

黒部市立鷹施中学校 三年 池崎 伍稀

私は学校の総合的な学習の時間に、元島民の方の話を聞く機会がありました。そこでは、あまり知らない現在の北方領土のこと、北方領土を返してもらうために今、政府がしていることなどを学びましたが、私は、その方がおっしゃった一言が忘れられません。

「今でも昔のことを夢に見る——」

島に住んでいた時は八歳だったそうですが、そんな小さな時の記憶が今でも残っていることに驚きました。しかも、島での暮らしを話しておられた時、その方はとても笑顔でした。私は、厳しい土地での生活だったのに笑っていただけることができるのは、毎日がとても楽しく充実していたからだと思います。元島民の方の講演を聞いて、今でも変わらない北方領土への強い思いというものが伝わってきました。

いろいろな思い出がたまっている北方領土を返してほし

いと願う反面、難しいのではないかという思いもありま
す。北方領土は日本の領土ですが、現在はロシアの人々が
暮らしています。その人々にとっても北方領土はふるさと
なのです。日本に返ってきたとしても、住んでいたロシア
の人達はどのようなのでしょうか。追い出されてしまうと、
元島民の方々のようにロシアの人達は思い出のつまったふ
るさとを失って、つらい思いをしてしまうことになってし
まいます。そんな思いをする人がいないように、元島民の
方、今現在島に住んでいる方、日本とロシアの首脳などが
きちんと話し合い、ほとんどの人々が納得できるようなこ
とを決めていってほしいと思います。そのためにも、もつ
と両国が相手のことを理解し合い、日本とロシアの人々も
仲を深めていくことが必要になってくると、私は思いま
す。

北海道からでも肉眼で見える北方領土。人々の思いが一
つになって実を結び、たくさんの方が笑顔になる未来が来
ればいいなと思っています。見えるのに、なかなかつかむ
ことができない。そんな近くて遠い北方領土がいつの日か
返ってくることを願って――。

北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞

北方領土について

富山市立岩瀬中学校 三年 金井 春音

北方領土。以前の私ならテレビのニュースなどで放送さ
れていても、大変な問題だと思っただけで聞き流していた言
葉です。私はこの作文を書くにあたってもっと詳しく北方
領土について知ろうと思ひ、インターネットで調べてみる
ことにしました。調べていくうちにこの問題は総理大臣や
国会議員など最前線で問題に取り組む人たちだけでなく、
日本の国民一人一人が深く知り、考えていく必要がある問
題ではないかと思う気持ちが強まってきました。

昭和二十六年、第二次世界大戦後の条約、サンフランシ
スコ平和条約が結ばれました。その条約で日本は千島列
島、南樺太を放棄しましたが日本が放棄した千島列島に歯
舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島は含まれていませ
んでした。これが分かったことよって北方領土は日本の
領土以外どのものでもないということがはっきりしまし
た。しかし、ロシアにはロシア側の主張があり、戦争に負

富山県教育委員会教育長賞

北方領土について学んで

黒部市立桜井中学校 三年 吉澤 葵

けたのだから占領して当たり前、実効支配をしているからロシアのものという主張があります。私は条約で決められているから日本のものだと思いますが、やはり二つの国の考え方の違いもこの問題がなかなか解決しない理由の一つだと思いました。ロシア側の主張はいろいろな意見の人がいる世界の中で一つの意見としては理解はできません。しかし、そのせいで北方領土に住んでいた日本人が追い出されたり、傷つけられたり、帰れなくなるのは違うし、そういう人たちが少しでも早く故郷へ戻るためにも領土返還はしてほしいです。北方領土からの引揚者が北海道の次に富山が多いと知り、より身近に思うようになりました。

他の国との関係が上手くいかない中、そう簡単にいくものではないかもしれませんが、私は、日本とロシアがお互いの考えを言って、理解し合えば、北方領土問題解決も時間にかかるかもしれませんが、そう遠い未来には感じません。そのためにまずは、これからの日本を背負っていく私と同じくらい歳の人にこの問題を深く理解して、知ってほしいなと思いました。

北方領土については、小学校のころから様々な活動を通じてかなりたくさんのことを学んできたつもりでいました。しかし、それは「北方領土は古くからの日本の領土であること」「第二次世界大戦のときにロシアが不当に日本から奪ったということ」「今もまだ返ってきていないこと」の三つぐらいのことで、中学生になってから初めて知ったこともたくさんありました。例えば、北方領土の自然についてや、現在の様子、たくさんの方が返還要求運動に参加していることなどです。特に、北方領土の周辺の海はとても豊かで、世界三大漁場の一つに数えられていることには驚きました。寒さのきびしい凍える冬の海のイメージしかなかったので、とても意外に思いました。そんな「初めて知った」ことの中でも私が特に興味を持ったのは、日本以外の、それこそロシアから見た北方領土の姿です。何か問題が起こったとき、一方からの視点のみで物事を考えるよ

りいくつもの視点、立場から客観的に考えた方が良い解決案が見つかると思っただけです。そこで、私は「日本人という立場にとられず、他国で北方領土問題がどう考えられているのか」と、「現在北方領土に住んでいるロシア人の生活について」を調べました。

まず、日本以外の国で北方領土問題はどうか扱われているかを調べました。正直なところ、日本以外の国ではあまり関心の高い問題ではなく、ロシア人さえ北方領土についてよく知っている人は数少ないようでした。これは両国の教育や民衆の関心の温度差によるものだと思います。しかし、ロシアの中にも「北方領土は日本に返還するべきだ」と主張する人々がいたことに驚きました。ロシア国内でこのような声をもっと広まって、人々の関心や注目も高まれば返還に向けた第一歩になりうると思います。

次に現地でのロシア人の生活について調べました。これはもつと情報が少なく、またあつたとしても非常に古い記録ばかりで苦労しました。情報によると、現在、北方領土は開発が進んでおり、島で生まれ育った、島が故郷だという人も増えています。これから時が経つにつれてどんどんロシア化は進んでいくと思われれます。生まれる場所を選べないそういった人達は、北方領土が日本に返還された後、

どうなるのでしょうか。日本側にはそのことをよく考える責任があると思います。元島民の吉田さんのお話では、日本人とロシア人が互いに共存できる土地にしたいとのことでした。双方の努力があればそれも不可能ではないと思います。ただただ「返して欲しい」と訴えるだけでなく、誰もが納得して幸せになれるような方法で解決することが一番大切なことなのではないでしょうか。

富山県市長会会長賞

おたがいを理解して行動を起こす

魚津市立西部中学校 一年 城木 穂香

私は、北方領土について、よく「悪いのはロシアである。」というような事を聞きます。確かに、「日ソ中立条約」を破り、現在も北方領土を不法占拠しているのはロシアです。でも、「日ソ中立条約」を破って、北方領土にせめこんでくることになったきっかけである第二次世界大戦の発端の一つとなったのは、日本の中国や韓国の人に対する

る理不尽な支配ではないのかと思います。

悪いのはロシアだけではありません。日本はその原因をつくつたのです。ロシアだけを悪者だと決めつけるのはいけない事だと思います。いつまでもロシアだけが悪いと決めつけていては、それ以上前には進めません。

私は日本とロシアの北方領土をめぐる対立に悪者はいないのではないかと考えます。ただ、おたがいを、まだ理解しきれていないだけであると。理解したいという思いをもつ事がとても大切だと思います。双方がその思いをもてた時、日本とロシアの関係は大きく発展するのではないでしょうか。

かつて北方領土に住んでおられた方々は、「北方領土は良かった。」と言っていました。日本にとって北方領土はとても大切なものです。ですが、それはロシアも同じなのではないかと思えます。

なかなか難しい事ではありますが、北方領土を日本とロシアの共有する領土とする事ができれば、それはとても素晴らしい事なのではないでしょうか。私がこんな事を言っても実現できるかどうかなんてわかりません。だけど、おたがいを認め合い、それぞれが北方領土を大切に思う気持ちを理解できたなら、できない事ではないと思います。

それを実現させるために、私達にもできる事がありません。一つ目はロシアなどに対するつまらない偏見をすてる事です。将来、大人になる私達が、かたよつた考えをしていては、ロシアとの領土の共有はありえません。二つ目はロシアと北方領土の理解を深める事です。ロシアと北方領土の事をより理解すれば、むこう側の気持ちが見えてくると思います。

大人や、領土に関係する仕事を行う人だけにまかせるのではなく、いざれ大人になる私達もできる事から始めていきたい、というのが私の考えです。

甘い考えかもしれませんが。だけど私達が今から何かを始める事が北方領土をめぐるロシアとの関係をより良くするために、とても重要な事であると思います。

これは国民全体の問題です。自分は無関係という考えをもたず、行動する、その思いをみんながもち、日本が一つになって、北方領土の問題を解決するという事が私の夢であり、希望です。私のひいおじいちゃんは夏になると歯舞群島で漁をしていたそうです。私にも関係のある場所なので、そこをめぐつて争つてほしくないというのが私の願いです。

富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞

北方領土返還を願って

黒部市立宇奈月中学校 三年 中山 舞祐

私は、北方領土の学習をするまで北方領土についてあまり知りませんでした。だから、根室から来た高校生の方に「若い世代が立ち上がらなければいけない！」と言われた時は、驚きました。私とそれほど年の差のない子が、北方領土のために今自分ができることを探し、積極的に活動していると感じたからです。

北方領土は、一度ソ連の領土になっていたのだから仕方がないと最初は思っていました。しかし、学習を進めていくうちに、サンフランシスコ平和条約では、千島列島及び南樺太を放棄しただけで、北方領土は日本の領土となっている事が分かりました。歴史上、北方領土がロシアの領土だと認められたことはなかったのです。さらに、元島民の方は、「私にとつての『ふるさと』です。」と言っておられました。この言葉には、当時の思い出、そして今ある寂しさを感しました。

そのような元島民の方々が、富山にはたくさんおられるのだと知りました。北方領土がロシアに不法占拠された時に、富山県へ引き揚げてこられた方は、千四百二十五人と北海道に次ぐ全国二位だそうです。また、冬になると出稼ぎから富山に帰ってきた方もいたそうです。このように、北方領土と富山県は、とつても関係が深いことが分かりました。

また、「生活は苦勞したけど、島は良かった。」と元島民の方が話しておられるDVDを見ました。生活は大変でも、島の方々の温かさや、家族の温かさがあつたのではないかと思います。

しかし、北方領土出前講座で耳にしたのは、思っていたほど単純ではない現実でした。ロシアに占領されてから数十年が過ぎました。それにより、進行したのが元島民の方々の高齢化です。元島民の方々は、当時より大分減っているそうです。そうになると、北方領土の事を語り継ぐ方が減ってしまい、北方領土問題への関心がさらに薄れてしまう可能性があります。加えて、ロシアによる島の整備と開発が進むことで、日本人は、より島が遠い存在であるように感じてしまう可能性があります。残念だけど、これが今の日本の現状だそうです。

このようなことから、私は私に出来ることをしたいなと思うようになりました。具体的には、署名活動への協力です。富山県で署名活動が行われていたら、私も北方領土の事を学んだ一員として、署名したいです。また、一人でも多くの人が北方領土問題に関心をもち、情報発信者となつて、島に対する意識が高まつていけば良いなと思います。最後に、日本固有の地である北方領土、そして、元島民の方々の「ふるさと」である北方領土が一日でも早く日本に戻ってくることを願っています。

入 選

北方領土について思ったこと

黒部市立鷹施中学校 三年 大窪 祐輔

北方領土出前講座を終え、僕は北方領土に対する関心や思いがより強くなりました。

話を聞いて、まず、ソ連（ロシア）が条約を破って攻めてきたことを残念に思いました。当時日本が戦争で大変

だった時に、その弱みにつけ込み、島民の方々をむりやり追いはらったことを知って、ひどいと思いました。ロシアの自分の利益だけを考えたこの行動に、僕は怒りを感じました。

もう一つ思ったことがあります。それは、元島民の方が故郷に帰ることなく、なくなられてしまっていることについてです。この話をきいて、一日も早く北方領土をロシアから返してもらい、たくさんの人を島に帰してあげなければいけないと思いました。そのために、これからは、署名活動や返還運動にできる限り参加していきたいです。日本固有の領土として、絶対に返してもらわなければいけないと思います。

もう一つ、講座で話をきいて大切だなと思ったことがあります。元島民の吉田さんは当時のことについて、ソ連軍は直接身体に危害を加えることは無かったと話しておられ、安心しました。吉田さんがロシアの人と話した時のことも聞かせてくださいました。「ロシア人と日本人との間には考え方のちがいはある。でも、ロシア人の中にも、日本人の考えを分かってくれる人はいる。」と。

この言葉が、僕の考えを変えました。ただ自分たちの怒りをロシアにぶつけて返還を迫るのではなく、友好的な関

係を築きながら、粘り強く、返還運動を続けていくことが大切なことだと思ようになりました。

きつと吉田さんも同じような考えだと思えます。

出前講座を終えて、これからは、もっと北方領土について勉強していきたいと思いました。そして、一日でも早い北方領土返還を願って、これからはもっと積極的に返還運動に参加していききたいと思えます。

全ては島民の方々の笑顔をとりもどすために。

入選

日本とロシアの架け橋

黒部市立高志野中学校 三年 能村 美悠

私の生まれ育った富山県黒部市は全国的にみても北方領土からの引き揚げ者が多い地域です。そのため、今でも元島民の方が多く住んでおられます。

学校の授業で元島民の方々のお話を聞く機会がありました。その話を聞いて私は驚きを隠せませんでした。八月

二十八日から九月五日までの間に北方領土が当時のソ連軍によって不法占拠されたこと、悪いことを何もしていないのに酒や腕時計などの精密機器をとられてしまったこと、銃におびえながら生活したことなど…。北方領土での元島民の方のお話は私が思っていたよりもひどく、むごい惨状だったと改めて思い知らされました。

そして、昨年、北方領土復帰促進少年少女北海道派遣団に参加した時に、納沙布岬から北方領土をみて、あまりの近さに驚きました。それと同時にこんなに近くにあるのにどうして元島民の方々は自由に行き来することができないのか疑問に思いました。北海道に最も近い貝殻島までは三・七キロメートルしかありません。しかし、この三・七キロメートルに日本とロシアの大きな隔たりがあるように感じました。

北方領土が占領されてからもう六十八年という長い年月がたちました。しかし、北方領土は返還されておらず、若者の北方領土への意識が薄れたことと元島民の方々の高齢化から北方領土問題自体がなくなりかけています。北方領土は日本人が血のにじむ思いをして、死にものぐるいで開拓した土地です。それなのに、このままロシアの土地になつてしまつてよいのでしょうか。

私は北方領土をロシア人と日本人が共生することのできる「架け橋」のような場所にしていくべきだと思います。もし、ロシア人を追い出し、日本だけの土地にすると、北方領土を故郷とする人たちが元島民と同じ悲しみや苦しみを抱えて生きていかなければならないからです。それではいけないと思います。ロシア人と日本人が国境を越えて支え合い、助け合うことができますはずです。

そのために私にできることは実際に見たことや聞いたことをたくさんの人々に伝える発信者となることだと思います。そして、多くの人々に北方領土について理解してもらい、その人々がさらに発信者となり、大勢に伝えていくことで北方領土に関心をもつ人が増えていくと思うからです。

私は元島民の方々が自由に故郷を歩き来できる日がくることを願ってこううったえ続けます。「北方領土はロシアと日本をつなぐ架け橋である」と…。

入 選

北方領土について

黒部市立桜井中学校 三年 吉田和歌子

私は北方領土の自然について調べました。北方領土は海流の影響を受けるため、二月の平均気温がマイナス六度前後と、北海道内陸部より暖かく、雪も少ないです。夏は、海霧がかかって日照時間が少ないことや、オホーツク海からの冷たい空気のおかげで、八月でも月平均十六度です。この気候により、北方領土には、数多くの貴重な動物や植物が生息しています。私はこのことを知ったとき、とても良い場所だと思つたし、住んでみたいと思いました。

その後、元島民の吉田さんのお話を聞きました。吉田さんたちは常にぎりぎりの生活をしていたそうです。食べ物自分たちで用意しないとイケなかつたし、大きな病院がなく看護師しかいない島で暮らしていかなければならなかつたとおっしゃっていました。初めは島での生活に少し慣れていた私ですが、吉田さんのお話を聞き、島での暮らしの大変さや、元島民の方々の苦労を知って、今、私が北

方領土は素晴らしい場所だと思えるのは、元島民の方々のおかげなのだと気付かされました。北方領土には豊かな自然がありますが、人が生活していくには、とても厳しい環境といえます。そんな自然とたたかいながら北方領土を開拓した人々に、私たちは感謝しなければならぬと思います。そして、そのことに私たちが関心をもち、理解し、また次の世代へと語り継いでいかなければいけません。

私の祖母は子どものとき、北方領土へ行ったそうです。私はこのことを最近知ったばかりです。このことを知るまで、私は、北方領土なんて自分には関係のないことだと思っていました。しかし、このことを聞いてから、急に北方領土が身近に感じられ、もっと知りたいと思うようになりました。今、富山県に住んでいる人のほとんどが以前の私のように北方領土にあまり関心のない人だと思えます。ただ、北方領土のことを語り継いでいくには、多くの人に関心をもってもらう必要があります。そのためには、何でもよいから、自分自身と北方領土との結びつきを見つければ良いと思います。そうすれば私のように自然と関心を持ち、そのことについて考える機会も多くなるはずです。

私は北方領土問題を深く理解した訳ではありません。ただ、私は、元島民の方々への礼儀として、この問題の早

期解決への姿勢を示すべきだと思います。私の理想は、日本もロシアも幸せになることです。北方領土がどちらか一方だけのものとなったら、もう一方の人々が悲しむはずで、誰かが幸せでも誰かが傷ついていけば、日本の人々が傷ついている今と何も変わりません。だから、みんながこの島で共存すれば、ロシアの人々も、日本の人々も、そこに棲む生き物達も幸せになれるはずです。

入 選

本当の「公正」を目指して

魚津市立東部中学校 三年 天野 晶心

「え、うそ、本当に。」

眠たかった私の目が急に開きました。ある朝のニュース番組での出来事でした。つい最近行われた選挙で、日本の改善点について話を進めているところでした。驚くことに「北方領土返還」の文字が書かれていなかったのです。どういうことでしょうか。日本人は、北方領土を返還してほ

しくないのでしょうか。私にはそんな風に受け止めるしかありませんでした。

また、私の周りを見れば、北方領土への「意識の低さ」はたくさん見受けられます。例えば、国語辞典。「北方領土」と探しても「北方」とは……としか表記されておらず、棒線の下に「領土」と二文字。「国語」という意味は何なのか、不思議に思っていました。

「北方領土」とは、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つの島のことですが、一体どのくらいの人と言えるのでしょうか。また、もし言えたとしても、大きさや位置する場所は、「日本の領土」として覚えておく必要があると思います。

しかし、光となる部分も山ほどあります。それは、「返還運動」です。「北方領土の日」があったり、「署名運動」があったりと。署名は今では、八千万を超えているそうです。

私は以前、社会科で「公正」について学びました。この今の現状に「公正」は必要不可欠だと感じます。ロシアとお互いがお互いの意見を尊重し、認め合い、納得する場を作ってほしいです。

もし、私の町まで北方領土の返還運動が広がるならば是

非参加し、少しでも国を動かす「原動力」になりたいと思います。そして、昔、北方領土に住んでいた方々に「勇氣」と「希望」を多く届けられたら嬉しいです。

実は、北方領土を日本の領土だと主張している国は、数えられないほどたくさんあります。その国々は、私たち「日本」の背中を押し、応援してくれています。期待に応えられるよう、一日でも早く和解が進むよう、支え合い、協力していくことが大切です。

今の日本は、「平和」だと言われています。確かに戦争も無いし、科学もとても進歩しています。しかし私は、パズルのピースが一つ無くなっている気がします。そのピースを見つげるため、今できることは何なのか考えていきます。

両国共に、納得し合える雰囲気をみんなで作っていきたいです。もしかしたら返還されるのは、明日かもしれない、明後日かもしれないと呼べるほど活発な運動にしたいです。

誰もが「平和」と呼べる日まで。

北方領土について思うこと

富山市立大沢野中学校 三年 加賀原真帆

北方領土は、かつて外国の領土であったことのない日本の領土です。第二次世界大戦後に、ソ連が国後・択捉・歯舞・色丹を含む地域を自国の領土としたため領土問題が起こってしまった。サンフランシスコ平和条約では、千島列島を日本が手放すようにはしたけれど、四島は、手放した千島列島には含まれないというのが連合国の解釈なのだそうです。

まず私は、なぜ日本が第二次世界大戦で降伏してからソ連が攻めてきたのかが分かりません。おかしいと思います。しかも、現在まで不法に占領されていることは、日本人として悲しいことと思えます。現在のロシアと当時のソ連は、いぶん変わりました。しかし、ロシアは日本に四島を返してはくれません。私は、どうしても返せないような大きな理由があるのではないかと思いました。例えば、北方領土に住んでいるロシア人たち。北方領土が、ロシアを

含む世界中の人たちに日本の領土と認められた場合、北方領土に住んでいるロシア人は、不便な思いをしてしまうと思います。他にも、北方領土の近海には、豊かな水産資源や海底資源がたくさんあります。軍事戦略においても、重要な役割を果たしています。だから、そう簡単にゆずるわけにはいかないのだと思います。でも、北方領土は日本のものということに変わりはありません。

北方領土問題を解決することは、とても大変なことだと思います。一つ間違えれば、ロシアとの関係が、最悪の状況になるかもしれません。そのような中で解決していくには、時間をかけて、確実に解決していかなければならないと思います。私は、時間がかかってもいいからロシア、日本のどちらの国も納得するように解決してほしいです。

私たちにできることは、とても少ないです。しかし、私は少なくとも北方領土のことをよく知って、自分なりに考えていきたいと思つて作文を書きました。この作文を読んだ人はもちろん、たくさん日本人、ロシア人の方々に北方領土のことをよく知って、自分なりに考えてみてほしいと思います。

入 選

北方領土は日本の領土

高岡市立南星中学校 二年 寺井 宏海

「北方領土」とは、現在ロシアに占領されている、日本固有の領土です。この北方領土問題は、私達富山県民にとって、どこか遠くの問題ではないということを、私はごく最近知りました。

「どこか遠くの問題ではない」というのは、富山県は北海道に次いで北方領土からの引揚者が多いということからです。

私は、北方領土は日本の領土であると思います。それは、第四十四回富山県北方領土復帰促進青少年少女北海道派遣団での活動があったからです。

いろいろな方の北方領土返還に対する意見や思いを聞くことができました。自分の故郷である北方四島に、今も帰ることができずにいる人も大勢います。そのためにも、早く問題を解決することが大事だと分かりました。

また、北方領土返還要求運動に参加しました。そ

こで、参加している人の思いの強さを、間近で感じる事ができ、このことから、北方領土と強いつながりのある北海道の人々が、どれだけ北方領土の返還を願っているのか分かりました。

歴史の中でも、いくつかの条約によって北方四島が日本の領土であることが分かります。

「四島のかけ橋」を実際に見に行つた時に、四島のかけ橋の意味と願いも聞いてきました。四つのでっぱりはそれぞれ、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島を表しており、納沙布岬の北方領土返還祈念シンボル像として建設されました。そして、このかけ橋に願いを込めているのは日本だけではなく、ロシアの人々です。ロシアの人々も、早くこの問題が解決して、北方領土と日本の間に、実際に四島のかけ橋がかかることを願っています。

このようなことから、私は北方領土が日本のものであると考え、早くこの北方領土問題が解決することを願っています。

問題を早く解決させるためにも、お互いのことをより理解していくことが大切なのではないかと思えます。